

「ユニバーサルデザイン」の4つの視点について

4 個人差への配慮

「環境の工夫」「組立ての工夫」「説明の工夫」の各視点に応じた支援を取り入れるだけでは、学習内容に参加したり授業内容を理解したりすることが難しい児童生徒がいることがあります。そのため、教師が座席配置を工夫したり、ノートに書き写す量を調整したりする等、個に応じた支援を取り入れることが大切だと考えます。これらに配慮した支援例を紹介します。

※この視点は、個の実態に対して行うものであるため、他の視点の支援と共通するものがあります。

支 援 例

【小学校】 児童が興味をもっているものを学習に取り入れる



注意を持続させることが苦手な児童が、意欲をもち続けながら授業に参加することができるように、取組の様子に応じて、児童の好きなシールを貼る。

【小学校】 書く量を調整したワークシートを用意する



書くことが苦手な児童の書く負担を減らすために、授業の要点だけを記入するようにしたワークシートを用意する。

【中学校】 児童生徒の実態や人間関係等を踏まえて座席を配置する



周りとの学力に差があり授業への参加や理解が難しい生徒が、学習に取り組みやすくなるように、教師が意図的に座席配置やグループ編成を行う。

【中学校】 絵や図等の視覚的な情報を提示しながら説明する



聞くことが苦手な生徒が、学習内容を理解しやすいように、電子黒板を利用して視覚的な情報を提示し、見るポイントを具体的に伝える。

【高等学校】 電子黒板の画面を学習用PCにも投影する



板書を書き写すことが苦手な生徒が、手元でも電子黒板の画面を見ることができるよう、学習用PCに電子黒板と同じ画面を投影する。

【高等学校】 個に応じた言葉掛けをする



注意を持続することが苦手な生徒が、注意を持続しやすいように、個別に言葉掛けをしたり、本人にとって答えやすい質問をしたりする。

その他の支援例

聞くことが 苦手	・話の内容やポイントが理解できているかを個別に尋ねて確認する。 ・説明の内容をまとめたメモを渡す。
書くことが 苦手	・作文を書く際は、事前に書く内容について説明しておく。 ・書き写しや、計算をする際の位取りをしやすくするために、マス目のあるノートやワークシートを準備する。 ・自分の考えを表現しやすくなるように、書く文章の内容を示したワークシートを準備する。 ・1枚のプリントに載せる問題数等を減らすことで、書きやすい大きさに記入できるようにする。 ・ノートのマス目の大きさや罫線の幅を選択できるようにする。 ・ワークシートを用いることで、書く量を調整する。 ・ワークシートを拡大し、解答を書き込む枠を広げる。 ・黒板の重要な箇所だけを書き写すようにすることで、書く量を調整する。 ・不器用さを補う文具を準備する（持ちやすくする鉛筆用グリップ、細微な部分が消しやすい消しゴム、針がずれにくいコンパス、目盛りが見やすい物差しなど）。
読むことが 苦手	・次時に学習する箇所を知らせ、家庭で音読を練習するように伝える。 ・問題文を読み聞かせて、内容を伝えておく。 ・提示する文章の字間や行間を広くする。 ・文字のポイントを大きくしたり、フォントを変えたりする。 ・単語や文節ごとに横線を入れたり、分けて書いたりしたプリントを準備しておく。 ・スリットを開けた厚紙を使ったり、定規や指を当てたりすることで読みやすくする。
話すことが 苦手	・話す内容をノートやワークシートに事前に書いてから発表できるようにする。 ・書いて伝える等、話して伝える以外の方法で伝えることができるようにする。
見ることが 苦手	・書き写す見本となるように、板書内容を事前に渡す。 ・見る箇所が分かるように、具体的に伝えたり、印を付けたりする。
注意を 持続すること が苦手	・カーテンや間仕切り等で刺激を遮る。 ・教師の近くや落ち着いた児童生徒の隣にする等、座席の位置を工夫する。 ・活動することや持ってくる物等を書いたメモを渡す。 ・説明や指示をする前に、名前を呼んだり、言葉掛けをしたりして注意を引き付ける。 ・取り組む課題を易しいものから難しいものへと段階を踏めるよう工夫する。
周りとの学力 に差がある	・教師やモデルとなる児童生徒の近くに座席を配置する。 ・作業や課題は一度に達成することが可能になるように、課題の量を調整する。 ・問題や宿題の量を児童生徒の実態に合わせて調整する。 ・活動内容や課題の難易度を児童生徒に合わせて用意して、選択できるようにする。 ・課題が早く終わった児童生徒のために、次の課題を用意しておく。 ・取り組みやすい方法で解決できるようにする（漢字を見て覚えるか書いて覚えるかなど）。 ・ヘルプカードや理解の程度に合わせたヒントカード等を活用する。 ・個の実態に応じた個別の補助教材や教具を活用する。
発達に 偏りがある	・守るべきルールや約束事のいくつかを児童生徒と相談して決める。 ・好ましくない行動に対する教師の対応を決めておく。 ・落ち着いて授業に参加できないときの過ごし方を事前に決めて、本人に伝えておく。 ・本人が興味をもっていることや得意なことを学習内容に取り入れる。 ・活動の手順を自分で確認することができるように、絵や文字で流れを視覚的に示したものを用意する。 ・作業がしやすいように、大きめの机を用意したり、立って作業できる場所を確保したりする。 ・言葉の意味等を調べるときに、電子辞書の使用を認める。 ・ノートに書く代わりに音声の録音やノートのコピー、パソコンを利用する等の方法を認める。

※個人差への配慮は個の実態に対して行うものであるため、他の視点の支援と共通するものがあります。